

# 中国語の結果複合動詞について

关于汉语的结果复合动词

濱 口 英 樹

本文首先概述英语、日语、汉语里“补语”这个术语的使用情况。第二节探讨“结果补语”的说明方法以及汉语动结结构的中心语。第三节讨论动结结构。主要从动结结构是词库中构成的复合词，还是句法中生成的复合词这两点来加以说明。第三节还提出分析抽象的使役轻动词与使役复合动词的方法。通过分析结果我们可以解决动结结构歧义的问题。最后指出汉语动结结构教学中应注意的问题。

## 0. はじめに

中国語の文法では、動詞、形容詞の後ろに置かれる補足的な表現を「補語(complement)」という。そして、“回去”の“回”は動詞であるが、“走回去”の“回”は補語であると言われ、可能補語には結果補語と方向補語が含まれる、つまり、補語の中に補語があるという状況である。

別の場所でも述べたことがあるが、筆者はできるならば、中国語教育、中国語文法から「補語」という用語をなくしたいと考えている。本稿では、中国語の結果補語といわれる後項動詞を含む、結果を表す複合動詞を、複合動詞の主要部、複合動詞が主文の文型に与える影響という観点から分析し、複合動詞の後項動詞が前項動詞を補足する補語であるのかどうかについて検討してみたい。

## 1. 「補語(complement)」という用語について

まず、各言語における「補語(complement)」という用語の使用状況を見ておきたい。

大塚他監修 1982: 215-216 によれば、英語で「補語(complement)」とは、不完全動詞(incomplete verb)の叙述を完全なものにするために補われた名詞、形容詞、または、それらの相当語句のことをいう。いわゆる5文型のうち、補語を含むものは“S+V+C”“S+V+O+C”であり、顕在的にせよ潜在的にせよ、“S=C”“O=C”という主語・述語関係が成立している。“This machine is out of order.”の“out of order”は主格補語、“He found the door open.”の“open”は目的補語と言われる。

日本語では、寺村 1982: 79-96 によれば、具体的なコトを描くかなめとしての叙述語が「述語」であり、それといろいろな格関係において結びつく名詞が「補語」である。「子供が橋をこ

わした」の「子供が」「橋を」は必須補語(primary complement)、「友人と食事する」の「友人と」は副次補語(secondary complement)であるとされる。

中国語では、動詞、形容詞の後ろに置かれる補足的な表現を「補語」という。「動作量補語(動量補語)」「結果補語」「方向補語」「可能補語」「程度補語(様態補語)」がある。

生成文法では「補部(complement)」という言い方もある。荒川 2005の英文タイトルで「補語」の訳語として使っている“complement”と J. Huang, A. Li, and Y. Li 2009:44の“complement”とは異なる概念である。後者は生成文法のXバー理論において、動詞の目的語や前置詞の目的語などについて、主要部である動詞の補部(complement)となる名詞、前置詞が主要部である場合にその補部(complement)となる名詞句というように用いられる概念である。

以上のように各言語により「補語」という用語の内包が異なり、また、中国語学における“complement”という術語も拠って立つ理論により異なる用い方がなされている。

## 2. 中国語の結果補語

「東京外国語大学言語モジュール」(<http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/zh/gmod/contents/explanation/047.html>)には、「結果補語」として以下のような説明がある。

(1) 結果補語は他の補語と同様に「補語」ですから、動詞の直後にくっつけて、動詞と一体化して広い意味での複合動詞を構成します。厳密にはフレーズ(動補フレーズ)ですが、複合動詞なので、全体が目的語を伴ったり、アスペクト助詞“了”や“过”を伴ったりします。この説明から「補語」や「フレーズ」などの用語を取りさり、

(2) 結果を表す複合動詞は、複合動詞なので、全体が目的語を伴ったり、アスペクト助詞“了”や“过”を伴ったりします。

という記述にできないものだろうか。

まず、「動補フレーズ」という用語は必要だろうか。中国語学で「動補フレーズ」という用語がどれだけ市民権を得ているのか調査するすべはないが、中国語学では「フレーズ」という文法用語の概念があいまいであることを濱口 1996:11-13で指摘したことがある。

次に、結果補語という用語を使うと、どうしても後項の動詞が前項を補う成分であると考えがちであるが、「東京外国語大学言語モジュール」においても、以下の(3)(4)のように<動詞+結果補語>の意味上の重点は結果補語の方にあることが多いとされている。

(3) 我[听懂]你的意思了。(私はあなたの言っている意味が[聞いて]わかりました)

(4) 她[喝]醉了。(彼女は[飲んで]酔っ払いました)

(3)(4)においては、[ ]内の動詞を省略しても文は成立し、文意にそれほど大きな変化はない。ところが動詞の方を残し結果補語の方を省略すると、文意が完全に変わったり、文が成立しにくくなったりすると述べられている。

李臨定 1984(1992: 498-499)は、以下の(5b)が文法的で、(5c)が文法的でないことから、補語の方が中心語であると主張している。

- (5) a. 我听懂了你的意思。(私はあなたの言っている意味が聞いてわかりました)  
b. 我懂了你的意思。(私はあなたの言っている意味がわかりました)  
c. \*我听了你的意思。

Shen and Lin 2005: 14-15 も、結果複合動詞の主要部は後項動詞であると主張している。以下の(6)(7)では、“没有”は“丢”“跑”の2つの動詞を否定することができるが、“不”が否定できるのは“跑”だけで、“丢”を否定できないことが示されている。もし、主要部が後項動詞の“丢”であれば、(8b)の非文法性は(7a)の非文法性の性質を受け継いだものとして自然に説明がなされるが、主要部が“跑”であるとする(7a)と(8b)の非文法性を説明することが非常に困難となる。

- (6) a. 张三没有丢钱包。(張三は財布をなくさなかった)  
b. 张三没有跑。(張三は走らなかった)  
(7) a. \*张三不丢钱包。  
b. 张三不跑。(張三は走らない)  
(8) a. 张三没有跑丢钱包。(張三は走って財布をなくさなかった)  
b. \*张三不跑丢钱包。

### 3. 中国語の結果構文

中国語の結果構文については、これまで夥しい研究がなされてきたが、その主な論点は、前節で見た複合動詞の主要部、中心語という問題に加え、複合動詞が語彙レベルで形成されるか(Li 1995、于一楽 2015 など)、統語レベルで形成されるか(湯廷池 1992、王玲玲 2001 など)という問題、そして結果複合動詞が使役義を有する問題である。

#### 3.1 語彙レベルでの形成

結果複合動詞が語彙レベルで形成されると主張する代表的なものとして于一楽 2015 を見てみよう。

(9)の例は、(9i)(9ii)(9iv)の解釈はあるが、(9iii)の解釈はないとされる、結果複合動詞の研究で最も有名な、多義文の例である。

- (9) 淘淘追累了悠悠。  
(i) (淘淘が悠悠を追いかけ、その結果悠悠が疲れた)  
(ii) (淘淘が悠悠を追いかけ、その結果淘淘が疲れた)  
(iii) \*(悠悠が淘淘を追いかけ、その結果淘淘が疲れた)

(iv) (悠悠が淘淘を追いかけ、その結果悠悠が疲れた)

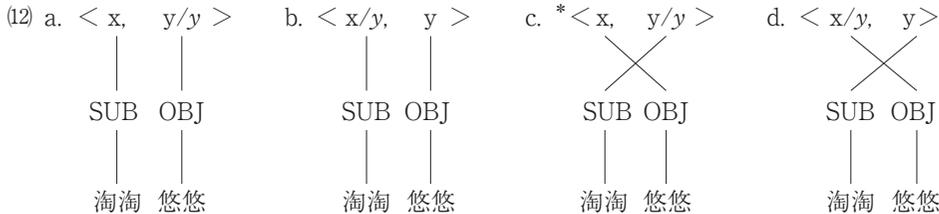
この解釈の問題について、于一楽 2015: 109-111 は、まず(10)-(12)の 語彙概念構造(Lexical Conceptual Structure、LCS)及びリンキングを提案する。

(10) “追累” (追う-疲れる) :

[<sub>EVENT</sub> x DO ON y] CAUSE [<sub>EVENT</sub> y BECOME [<sub>STATE</sub> y BE TIRED]]  
 (x = chaser, y = chasee, y = tiree)

(11) a. < x<sub>i</sub>, y<sub>j</sub> >, < y<sub>i/j</sub> >

b. < x, y/y > or < x/y, y >



結果複合動詞では、論理的に可能な項の具現化パターンは(12a, b, c, d)のように4つある。この4つの項の具現化パターンから得られる解釈は、それぞれ順に(9i, ii, iii, iv)に対応する。そのうち、(12c)は不可能な項の具現化パターンになる。

(12a)では、主語“淘淘”に動作主(x)(追う人)が、目的語“悠悠”に対象/対象(y/y)(追われる人かつ疲れる人)という意味があるので、“淘淘”が“悠悠”を追ってその結果“悠悠”が疲れるという解釈となる(9i)。(12b)では、主語“淘淘”に動作主(x)(追う人)と対象(y)(疲れる人)が、そして目的語“悠悠”に対象(y)(追われる人)という意味が与えられているので、“淘淘”が“悠悠”を追ってその結果“淘淘”が疲れるという解釈となる(9ii)。(12c)では、主語“淘淘”に対象/対象(y/y)(追われる人/疲れる人)、目的語“悠悠”に動作主(x)(追う人)の意味が与えられ、(9iii)の不可能な解釈となる。最後に、(12d)では、主語“淘淘”に対象(y)(追われる人)、そして目的語“悠悠”に動作主/対象(x/y)(追う人/疲れる人)という意味があるので、“悠悠”が“淘淘”を追ってその結果“悠悠”が疲れるという解釈となる(9iv)。

(9)の4つの解釈のために、于一楽 2015: 111 は、以下の(13)の規定を提案する。

(13) 結果複合動詞の項構造において、項 $\alpha$ に対象(theme)の解釈があるときに限り、項 $\alpha$ は目的語(内項として項構造に)に具現化される(ただし、主語(外項)がなければならない)。

(13)は、ある項に対象の解釈が含まれることが、その項が目的語に具現化されるための必要条件であることを表している。したがって、(13)から排除される項の具現化パターンは対象を含まない項が目的語に具現化される場合となる。これは、(12c)の不可能な項の具現化パターンに相当し、(9iii)の解釈はありえないことを示している。(9iii)では目的語の“悠悠”に動作主の解釈しか与えられていないので、(13)に違反するというものである。

影山 1993：79 は、語彙レベルで生成される複合動詞は、典型的な<語>の特徴——意味の慣習化と語彙的な結合制限——を備えており、そのほとんどは辞書に登録されると考えるのが合理的であると述べている。于一楽 2015 のように“追累”だけでも(10)–(12)のLCSやリンクングを3パターンに分けてレキシコンに登録するとすれば、中国語の結果複合動詞は膨大なレキシコンとなり、現実的ではない。さらに、(13)についても、(9ii) (9iv)のように対象の解釈をもつ項が主語(外項)になることも一般的であり、“追累”の文における(9iii)の解釈を排除するためだけというアドホック感は否めない<sup>1)</sup>。

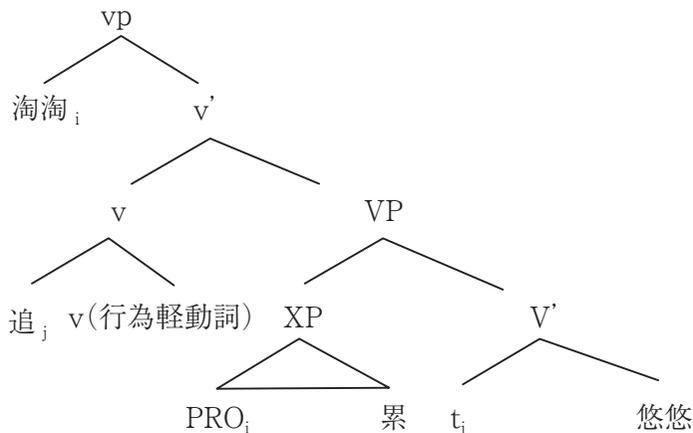
沈家煊 2004：3 でも指摘されているように、結果複合動詞には、使役性を持つものと使役性を持たないものがある。于一楽 2015：106 は、結果複合動詞は、V1とV2が合成した時点で、その間には使役関係が成立するとしており、(10)–(13)の分析では結果複合動詞における使役性の有無を説明することはできない<sup>2)</sup>。

### 3.2 統語的な形成

結果複合動詞が統語レベルで形成されると主張する代表的なものとして王玲玲 2001 を見てみよう。

まず、前節で見た(9ii)の解釈は王玲玲 2001：149 の分析に従えば以下のような構造となる<sup>3)</sup>。

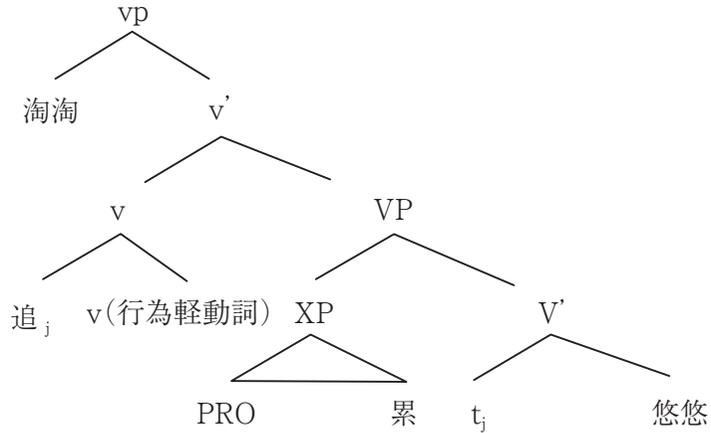
(14) (淘淘が悠悠を追いかけて、淘淘が疲れた) = (9ii)



“淘淘”は“追”の「動作主」であり、PROをコントロールして“累”の「経験者」ともなっている。“悠悠”は“追”の「対象」である。「v(行為軽動詞)」はゼロ形式であるため、必ず“追”が繰り上がって「v」に付加しなければならない。

次に(9i)の解釈は王玲玲 2001：152 の分析に従えば以下のような構造となる。

(15) (淘淘が悠悠を追いかけて、その結果悠悠が疲れた) = (9i)

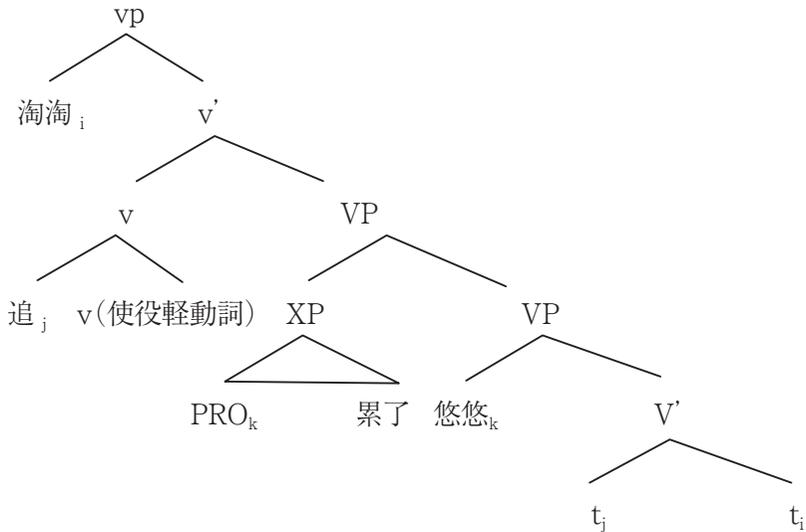


(15)は(14)と同じ構造であるが、論理形式で“悠悠”がPROをコントロールする位置に移動するとされている。

(16) 淘淘追 [悠悠<sub>i</sub> -PRO<sub>i</sub> 累<sub>t</sub>] t<sub>i</sub>

次に(9iv)の解釈は王玲玲 2001 : 142 及び 153 の分析に従えば以下のような構造となる。

(17) (悠悠が淘淘を追いかけ、その結果悠悠が疲れた) = (9iv)



(17)では、“淘淘”は本来“追”の「対象」であり、“悠悠”は“追”の「動作主」とともに、“累”の「経験者」であること、そして、“淘淘”は使役の軽動詞により「使役者(causer)」の意味役割を付与されることが示されている。

しかしながら、“追”と“累”は複合述語(complex predicate)を形成する2つの別々の動詞であるとする王玲玲 2001 の(14) (15) (17)の分析では、以下の“把”構文で(18i)と(18ii)の解釈しれないことが説明できない。

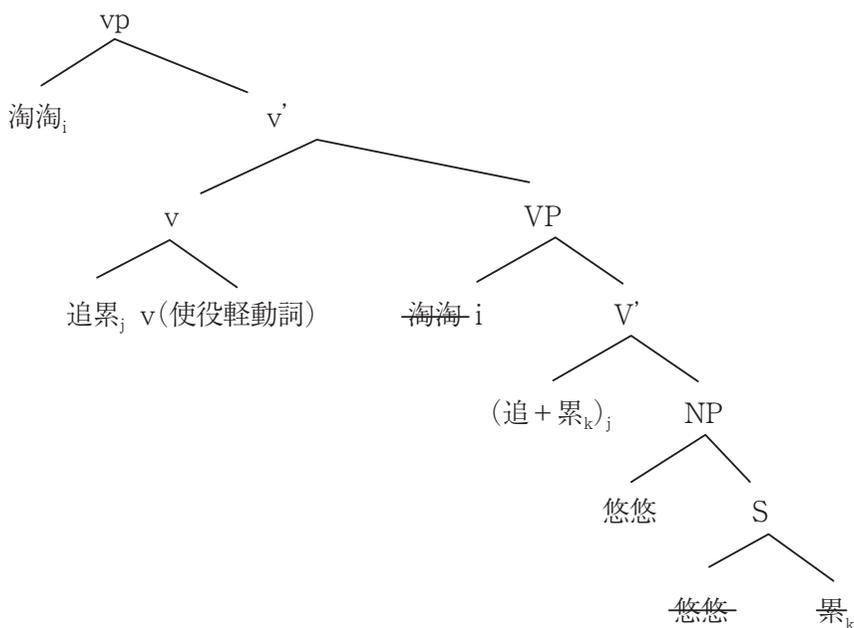
(18) 淘淘把悠悠追累了。

(i) (淘淘が悠悠を追いかけ、その結果悠悠が疲れた) = (9i)

(ii) (悠悠が淘淘を追いかけ、その結果悠悠が疲れた) = (9iv)

ここでは、(15)に替えて以下のような構造を提案したい。

(19) (淘淘が悠悠を追いかけ、その結果悠悠が疲れた) = (9i)



(19)では、望月 1990b : 131、湯廷池 1992 : 205、山口 1991 : 120 における動詞の移動による複合語化“追+累<sub>k</sub>”を想定している<sup>4)</sup>。そしてその複合した“追+累<sub>k</sub>”がさらに抽象的な使役軽動詞と融合(merger)し、その使役の複合動詞“追累”は“淘淘”に「使役者」の意味役割を付与し、“悠悠”に「被影響者(affectedness)」の意味役割を付与する。この結果複合動詞は、湯廷池 1992 : 161 では達成動詞(accomplishment verb)であるとされており、石村 2011 : 68 の指摘する、(17)の“追<sub>j</sub>”のような、継続相を持つ意志性動詞は使役動詞に転化しないという問題をも解決することができる。

(9iv)の解釈については、(17)で見たように、王玲玲 2001 でも抽象的な使役軽動詞の存在が仮定されているが、そこでもやはり“追累”は複合動詞として“淘淘”に「使役者」の意味役割を付与し、“悠悠”に「被影響者」の意味役割を付与する働きをしていると考えなければならない。このことによって“淘淘”が“把”構文の主語の一般的な意味役割「使役者」を与えられ、“悠悠”が“把”の目的語の一般的な意味役割「被影響者」を与えられるために、(18i) (18ii)の“把”構文の解釈が得られる。(9ii)の解釈の場合、抽象的な使役軽動詞の存在が仮定されないため、“悠悠”が「被影響者」の意味役割を得ることができず、“把”構文では(9ii)の解釈が得ら

れないということになる。

また、この“追累”が一語化していると考えることによって望月 1990a: 24 で指摘されている否定のスコープの問題もクリアすることができる。

(8) a. 张三没有跑丢钱包。(張三は走って財布をなくさなかった)

(8a)で見たように“没有”は“跑”だけではなく“丢”も否定のスコープに含んでいる。“跑丢”を1つの動詞として見なさなければ、この解釈を得ることができない。

#### 4. おわりに

20年以上前になるだろうか、「補語とは何か」という問いに、「補語とはゴミ箱です」「中国語学では、得体の知れないものは、すべて補語に分類します」と答えられた先生がいた。冒頭でも述べたが、筆者はできるなら「補語」という文法用語を中国語のテキストからなくしてほしいと願っている。本稿には、「得」字補語文は補語文ではないと主張した濱口 2016 の続編の意味も込めている。

中国語のいわゆる「結果補語」が「補語」でないとすれば、その「結果補語」を後項動詞とする結果複合動詞は一体どのような複合動詞なのか。本稿では、それを明らかにするために、中国語の結果構文において最もホットな“追累”の多義文を、「抽象的な使役軽動詞」の存在を仮定し、分析を試み、すべての結果複合動詞が使役性を持つのではなく、使役性を持つ複合動詞と使役性をもたない複合動詞があること、そしてそれが“把”構文の解釈にも影響を与えることを見た。

秋山 2011: 8 は、中国語教育の際に予め知識を整理するというものであるが、中国語の結果複合動詞の構文には、使役的な意味に解釈されるタイプと非使役的な意味に解釈されるタイプがあるということが重要であると述べている。本稿の分析は、この秋山 2011 の主張を補完するものと言えるかもしれない。

中国語の結果複合動詞は、補語すなわち後項動詞が後ろから補うというものでは決してなく、前項動詞と後項動詞が複合し、1つの動詞として文の基本構造を決定するものである。使役的な意味を持つものと、非使役的な意味を持つものがあるが、その使役性の有無にも複合動詞全体が関わっている。このことを理解した上で、これは複合動詞であると教えることが、日本語の複合動詞という母語の知識を利用することに繋がるとともに、「結果補語」という不必要な文法事項の学習という障害を排除することにも繋がると思われる。

#### <注>

- 1) 結果複合動詞の統語的派生の歴史についての議論は望月 1990b: 129 を参照。
- 2) 石村 2011: 3 においても、中国語結果構文は「語順」を利用して使役義を表すという主張がなさ

れている。

- 3) 王玲玲 2001 は軽動詞分析を採用している。「行為軽動詞(performative light verb)」「抽象的な使役の軽動詞」については、ラドフォード 1997(2000: 159-172)を参照されたい。また、結果複合動詞に抽象的な使役動詞を用いる分析は、Baron 1971: 43, Sybesma 1999: 38 にも見られる。
- 4) 王玲玲 2001: 25-36 が結果複合動詞は複合動詞(compound verb)ではなく、複合述語(complex predicate)であると主張する根拠は以下のような例である。
- a. 张三吃完了饭。
  - b. 张三把饭吃完了。
  - c. 饭被张三吃完了。
  - d. 张三吃饱了饭。
  - e. \*张三把饭吃饱了。
  - f. \*饭被张三吃饱了。

王玲玲 2001: 26 は V1 “吃” と V2 “完” “饱” は別々の動詞であり、それぞれが主語を持つと考えなければ(b)と(e)、(c)と(f)の文法性の差異を説明できないとしているが、本稿の(19)のような動詞の移動による複合語化によってでも、複合語化する前の“完”の主語は“飯”であり、複合化する前の“饱”の主語は“张三”であると分析することにより、(b)と(e)、(c)と(f)の文法性の差異を説明することができる。また、(a)と(d)の差異は V2 が“张三”について述べたものか、“飯”について述べたものかという差異である。この点については、(16)で見たように王玲玲 2001: 152 でも論理形式での移動という説明がなされている。

#### <参考文献>

- 秋山淳 2011. 「中国語教育において、予め整理しておくべきこと——結果補語をモデルとして」, 『西南学院大学言語教育センター紀要』第1号, 3-11頁。
- 荒川清秀 2005. 「“买回来”と“寄回来”——中国語における他動詞+方向補語の構造——」, 『中国語学』252号, 127-143頁。
- 濱口英樹 1996. 「中国語の節と文の構造について」, 『中国語学』243号, 11-16頁。
- 濱口英樹 2016. 「“得”字補語文について」, 『関西大学外国語教育フォーラム』15号, 19-27頁。
- 石村広 2011. 『中国語結果構文の研究——動詞連続構造の観点から——』。東京: 白帝社。
- 影山太郎 1993. 『文法と語形成』。春日部: ひつじ書房。
- 望月圭子 1990a. 「日・中両語の結果を表わす複合動詞」, 『東京外国語大学論集』第40号, 13-27頁。
- 望月圭子 1990b. 「動補動詞の形成」, 『中国語学』第237号, 128-137頁。
- 大塚高信・中島文雄監修 1982. 『新英語学辞典』。東京: 研究社。
- ラドフォード, A. 1997. 『入門ミニマリスト統語論』(外池滋生・泉谷双蔵・森川正博訳, 東京: 研究社, 2000年)
- 寺村秀夫 1982. 『日本語のシンタクスと意味 I』。東京: くろしお出版。
- 于一楽 2015. 「中国語結果複合動詞の意味構造と項の具現化」, 『語彙意味論の新たな可能性を探って』, 102-129頁。東京: 開拓社。
- 山口直人 1991. 「動補動詞の類型と形成について」, 『中国語学』238号, 115-124頁。
- 李临定 1984. 「究竟哪个“补”哪个? ——“动补”格关系再议」, 『汉语学习』第2期, 1-10頁。(北京语言学院教学研究所编『现代汉语补语研究资料』北京: 北京语言学院出版社, 1992: 495-503に再録)
- 沈家煊 2004. 「动结式“追累”的语法和语义」, 『语言科学』第6期, 3-15頁。
- 湯廷池 1992. 「漢語語法的‘併入現象」」, 『漢語詞法句法第三集』, 139-242頁。臺北: 臺灣學生書局。
- 王玲玲 2001. 「漢語的動結結構句法與語意研究」, 博士學位論文: 香港理工大學。[Online]. Available: <http://ira.lib.polyu.edu.hk/handle/10397/3251> [Accessed: 2016/8/11].

- Baron, Stephan P. 1971. "Some Cases for Case in Mandarin Syntax," *Working Papers in Linguistic* 10, 35-52. Ohio State University.
- Huang, C.-T. James, Y.-H. Audrey Li, and Yafei Li. 2009. *The Syntax of Chinese*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Li, Yafei. 1995. "The Thematic Hierarchy and Causativity," *Natural Language and Linguistic Theory* 17, 445-497.
- Shen, Li and T.-H. Jonah Lin. 2005. "Agentivity Agreement and Lexicalization in Resultative Verbal Compounding," Unpublished manuscript, Doshisha University and National Tsing Hua University. [Online]. Available: [http://ling.nthu.edu.tw/faculty/thlin/pdf/Shen\\_Lin.pdf](http://ling.nthu.edu.tw/faculty/thlin/pdf/Shen_Lin.pdf). [Accessed: 2016/8/11].
- Sybesma, Rint. 1999. *The Mandarin VP*. Dordrecht: Kluwer.